

標記について下記のとおり報告します。

報告者 部会長 竹内 仁

日 時	2015 年 3 月 23 日 (月)
場 所	城陽市福祉センター
出席者	あんびしゃ(3名)、あつぶ(1名)、魁(1名)、福祉課(2名)、はびねず (1名)、城陽作業所(1名)、野の花 (1名) みんななかま(2名) (参加者数：12名)
オブザーバー	朔日の会 (1名) チェリー工房 (1名) (参加者数：2名)
欠席者	(有)ファンシステム(1名)、庭一造園(1名)、宇治支援学校(1名)、(株)ナプラス (1名)、就労促進授産支援ネットワーク (1名)、
検討課題	1. 福祉情勢・就労に関する情報の共有、2. その他

【議事録】

1. 福祉情勢・就労に関する情報の共有

・2事業所(朔日の会・チェリー工房)にオブザーバー参加となった経過を説明

* インターンシップでの取り組みをしてきたが、来年度新しい取り組みとしての話がオブザーバーとして参加した方からあったので、今回、参加してもらった。その話との関係で就労部会としてどのように整理と連携をとっていったらいいかの相談のためにもう1事業所の方にオブザーバー参加をお願いした。

・新たな取り組みの提案。

* 商工会議所の異業種交流会の関連で福祉と連携して何か新しいことができないのかを考えている。雇用についてや引きこもりの方への支援として、就労体験をしていく等。

* 特産品をネット販売できないか。宇治のホームページでたくさん載っているものがあり、その主催者に来ていただいて講義してもらおう予定。

* 新市街地での郵政やアウトレット店舗についての情報がある。城陽市は雇用しようとしても人が集まらない。人手不足。障がい者雇用に関しては情報不足で雇用主は不安に思っている。特産品の開発も考えている。

* 郵政の雇用は1,000人ほど。障がい者雇用枠をつくってほしいと頼んでいるところ。

* 商工会議所は福祉部門をつくりたいと言っているが、手が回っていない現状もある。

* 積極的に関わってくれていいと言ってもらっている。商工会も30周年を迎えるので、力を入れていくと思うので、そこに乗っていったらと思うが、各事業所が人モノ金を出せるかどうか。

* 郵政省が来るにあたってどのテーブルに乗ることになるのか。

* 逆にこちらから、実現・持続可能かどうか提案しないといけない。

* しかし、就労部会の場でまとまりのある話しにしてもってくのは難しい。事業所単位で動いた方が早く進むと思う。

* 商工会議所と連携するにあたって、是非とも連携をとっていきたいという事業所はあるのか。

* 当事業所としては、共同受注ではなくて、企業に入っていく方向に力を入れて考えていきたいと思う。

* 各事業所で、取り組むスタンスが違う。

* 就労部会は企業との連携、就労促進授産支援ネットワークは福祉製品という位置づけでやってきた。

* 就労部会で、新しい企業と繋がって、良い経験ができたと思う。

* 郵政の話はどうしたらいいのか。

* 商工会議所つながりで、話を上げてもらうこともできるが、個別で当たってもらう方がいいと思う。本当に派遣できる状態がつかれるのかが重要になる。

* 就労でも各事業所、色々な考え方があり、差がある。そんな状況の中、今年度の共通目的として、地域企業との連携も含めたステップアップの取り組みを行ってきた。郵政省の就労はかなり大きな話しとなるので、そこへの就労も含めた取り組みを

行っていくならば、就労部会のグループを二つに分けた方がいいと考える。例えば、企業就労を強化していきたいと考える事業所のグループ、もう一つは、福祉事業所で働きながら企業の仕事を体験する等就労の幅を実態にあわせて、広げていくグループに。

* 就労部会を二つに分けて、会議を増やすよりも、郵政省の関係は個別で動いて就労部会に報告するのではどうか。

* 城陽市としては、自立支援協議会の就労部会はどうあるべきものかという考えはあるのか。

* 一つの案としてだが、郵政省とは個々に繋がって、就労部会に報告していく形態にしたらいいと思う。あんだんて（授産支援就労促進ネットワーク）と就労部会の違いが明確になっていなかったの、就労部会は企業と繋がっていくことを中心にやっていったらよと考える。

* 商工会議所の中で、特産品をどのようにつくっていかうという話はしているか。

* 経過中だが、頑張っている。

* 今までの就労部会の取り組みでは、2~3年スタンスで少しずつステップアップしていく方向でやってきた。郵政などの大きな話になると、現在の就労部会では対応ができないので、企業就労を強化されている事業所同士で集まっていただき、独自の動きを作ってもらった方がいいと考える。

* 郵政の話はどの事業所の方も引いておられると思う。当事業所の障がい実態からも厳しい。休みがちな利用者はついていけないので。

* 来年度の方向性の到達点はどうするのか。

* 今まで積み重ねてきた部会の取り組みがあるので、一つのグループはそれを継承する、もう一つは先ほどからお伝えしているとおり、企業就労を強化されている事業所が集まるグループに分けた方がいいと思う。

* 分けると会議が増えることになるので、分けなくいいと思う。

* キーワードは「企業」になると思う。実習先としての企業に福祉がどう関わっていくのか、就労部会の肩書があれば企業就労の幅が広がると思う

* 広報に載った実践を継承していく必要はあると思う。

* 中小企業同友会との繋がりがあれば、そっちの方向でやっていったらどうか。

* 新市街地は色々な企業が入ってきて、チャンスである。

* 郵政の話に関しては各事業所で取り組んだらいいと思う。

* 商工会議所の異業種交流会に、就労部会からオブザーバー参加することは可能か。

* 個別での対応で参加するより、就労部会の肩書で参加した方が理解され易いし、効果も高い。

* 現時点では難しい。

2. その他

・次年度の取り組み案

* 福祉事業所見学（実施できなかった、「甲賀バウム」へ）

* インターンシップの取り組み（中小企業家同友会との連携）